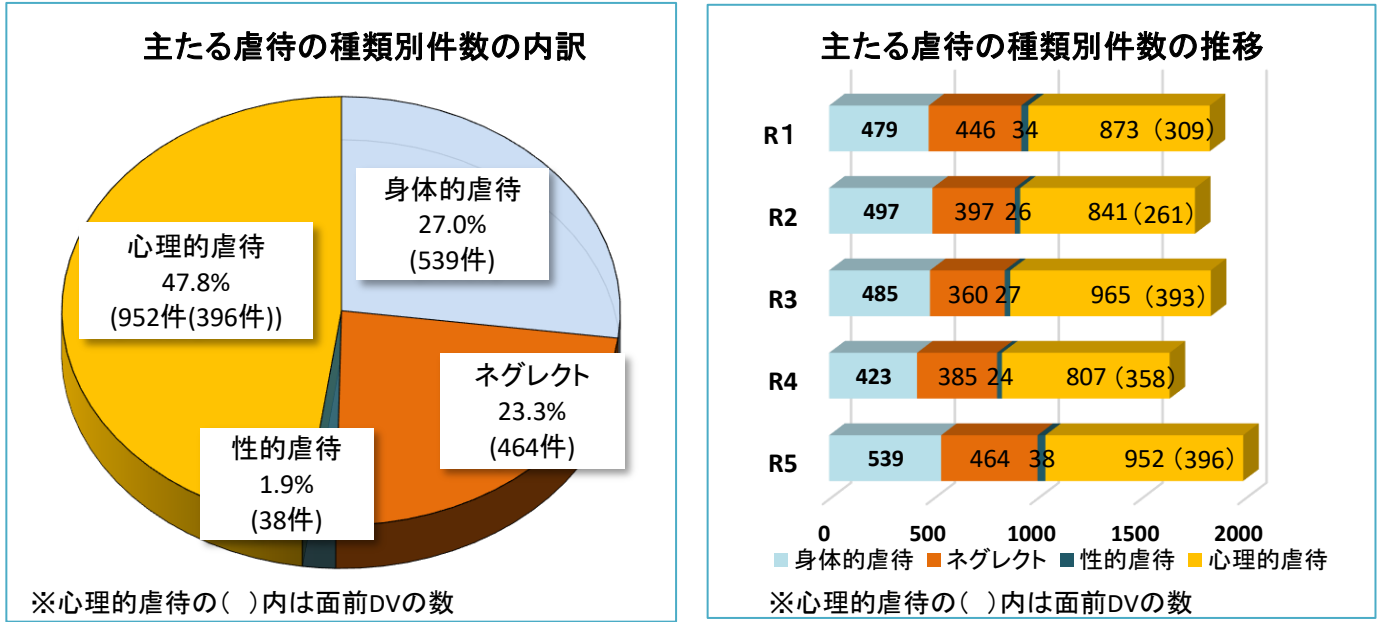
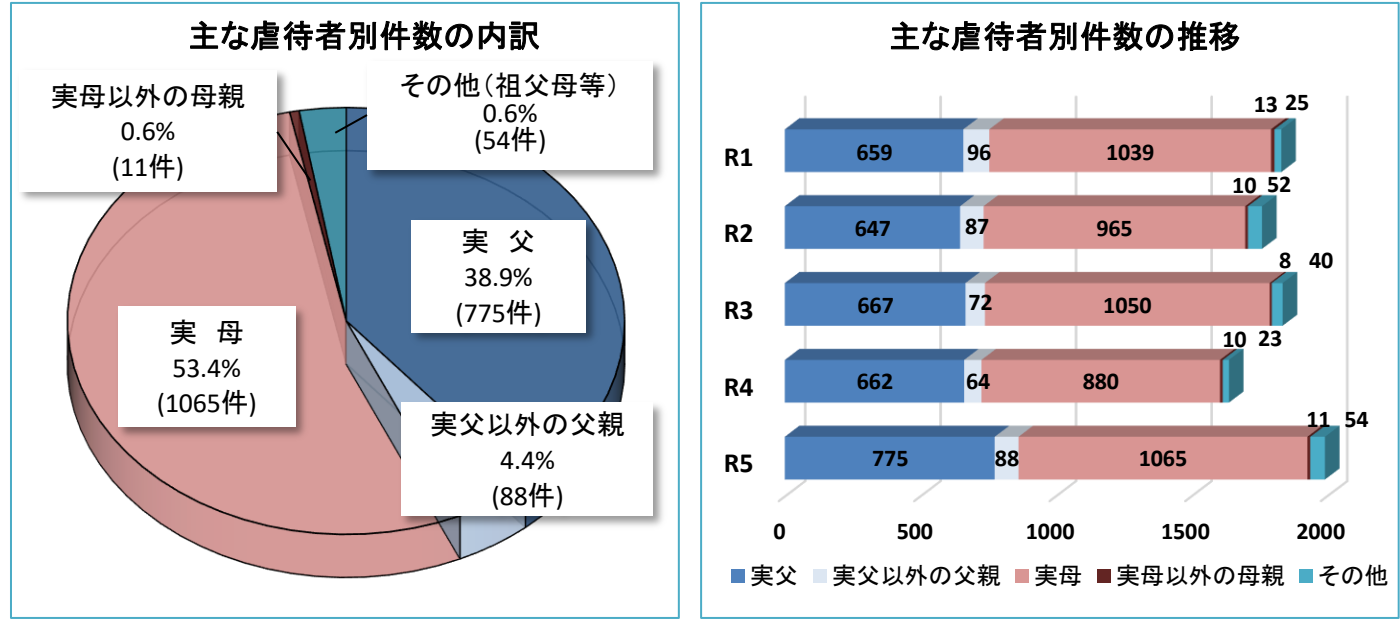


主たる虐待の種類



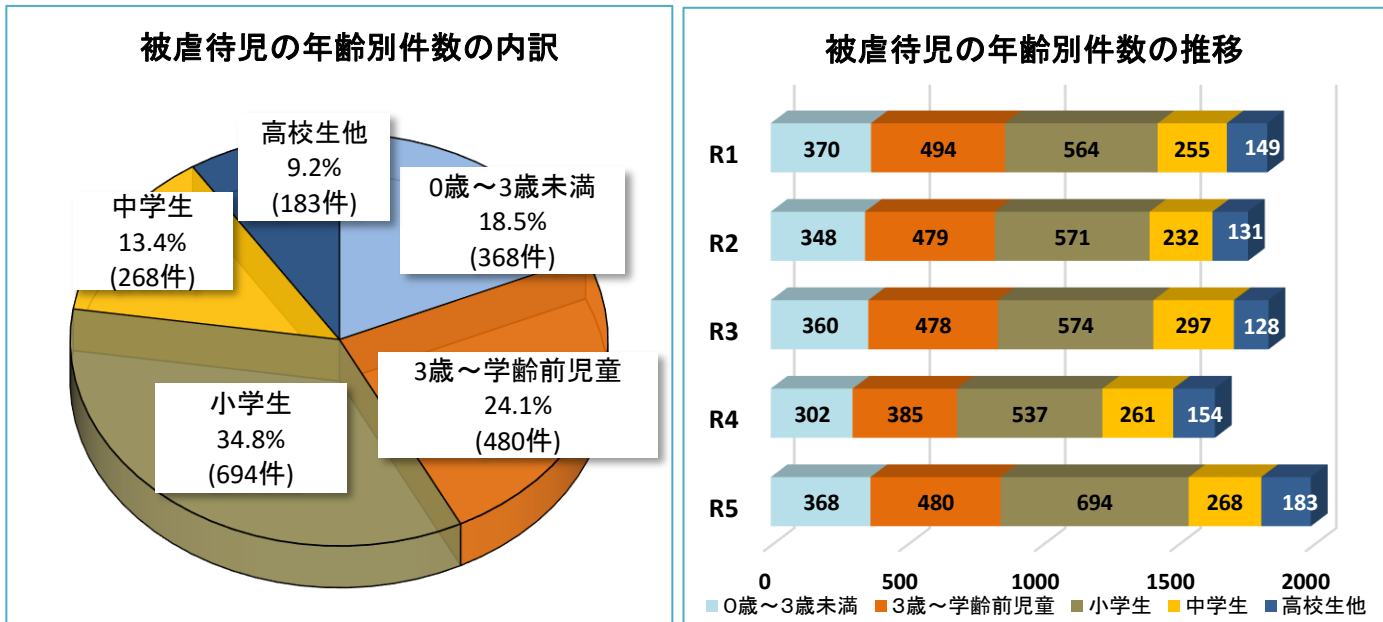
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」、「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、心理的虐待が145件増(18.0%増)、身体的虐待が116件増(27.4%増)、ネグレクトが79件増(20.5%増)、性的虐待が14件増(58.3%増)となった。「心理的虐待」が全体の約半数を占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者



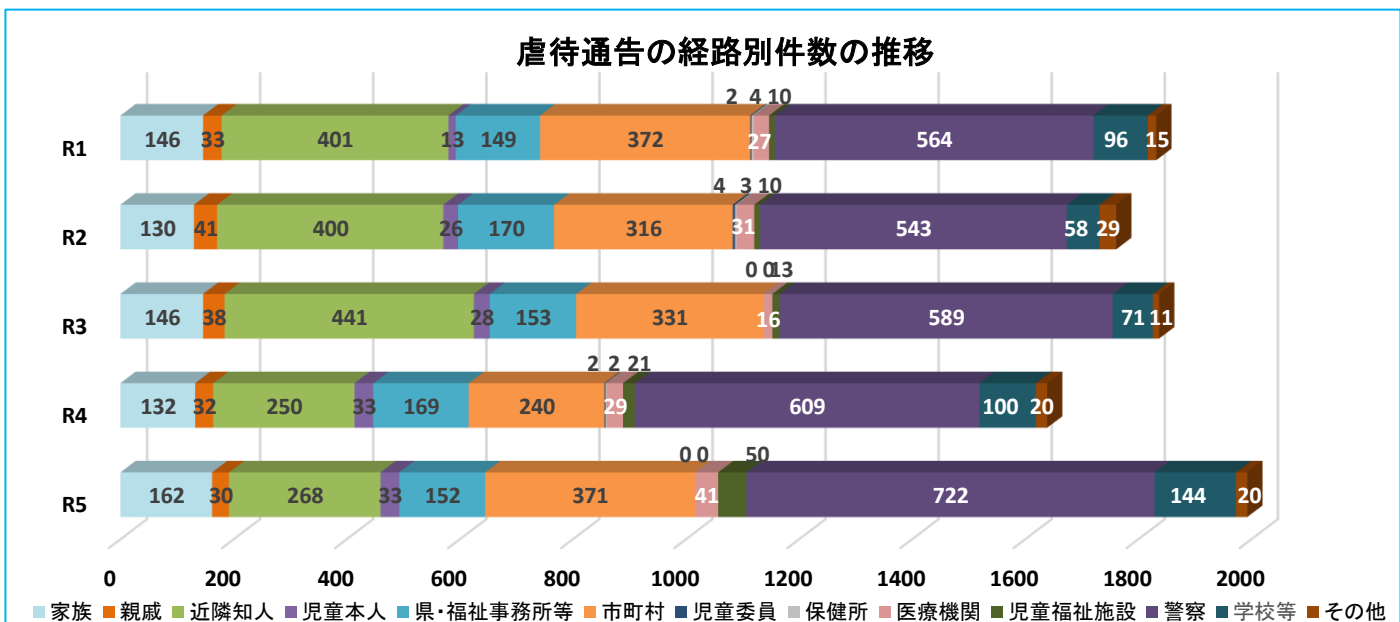
「実母」の件数が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の9割以上を占めている。前年度と比較すると、「実父」が113件増(17.1%増)、「実父以外の父親」が24件増(37.5%増)、「実母」が185件増(21.0%増)、「その他(祖父母等)」が31件増(134.8%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

被虐待児の年齢



前年度と比較すると、「0歳～3歳未満」が66件増(21.9%増)、「3歳～学齢前児童」が95件増(24.7%増)、「小学生」が157件増(29.2%増)、「高校生他」が29件増(18.8%増)となった。傾向については、前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



「警察」「市町村」「近隣知人」の順に件数が多く、前年度と比較すると、「警察」が113件増(18.6%増)、「市町村」が131件増(54.6%増)、「近隣知人」が18件増(7.2%増)となった。